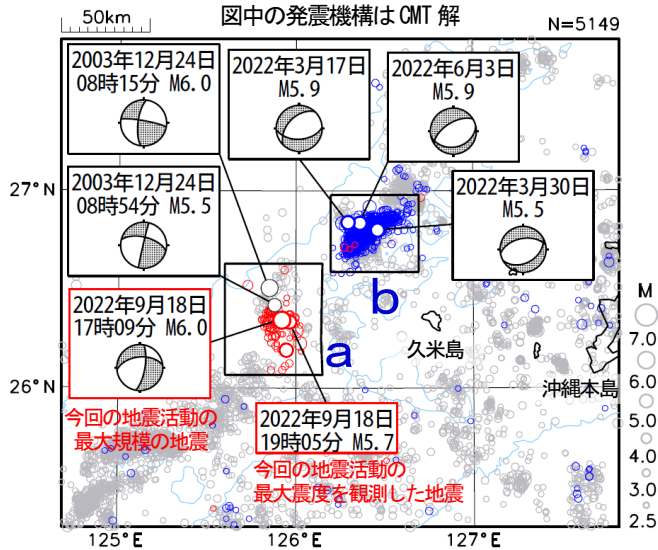


9月18日 沖縄本島北西沖の地震（久米島の西約80kmの地震活動）

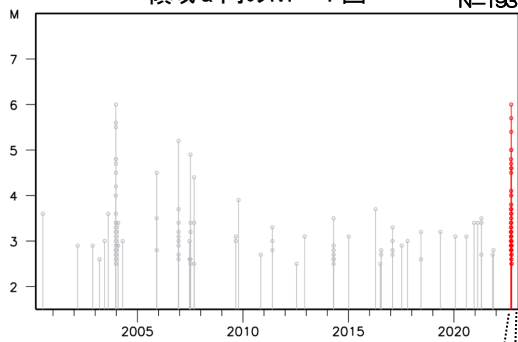
震央分布図

(2000年7月1日～2022年9月30日、
深さ0km～60km、 $M \geq 2.5$)
2022年1月30日以降の地震を青色で表示
2022年9月12日以降の地震を赤色で表示
図中の発震機構はCMT解

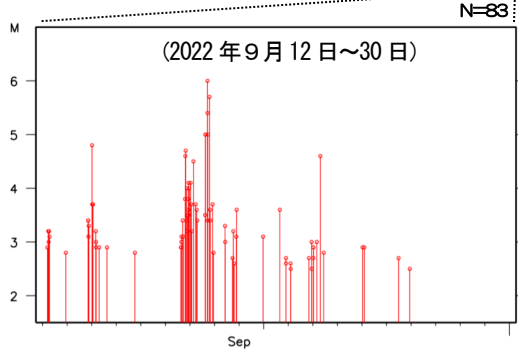


図中の水色の等値線は水深1500mを示す。

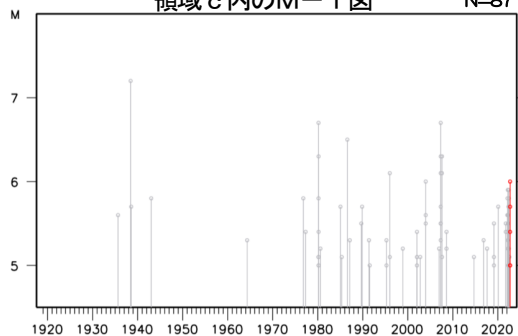
領域a内のM-T図



(2022年9月12日～30日)



領域c内のM-T図



(この期間は検知能力が低い)

2022年9月18日17時09分に沖縄本島北西沖でM6.0の地震（最大震度2）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は、北西-南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。また、この地震の震央付近（領域a）では、同日19時05分にM5.7の地震（最大震度3）が発生した。領域aでは、9月14日から30日までに震度1以上を観測する地震が8回（震度3：1回、震度2：1回、震度1：6回）発生した。この地震活動は、沖縄トラフの活動で陸のプレート内で発生した。

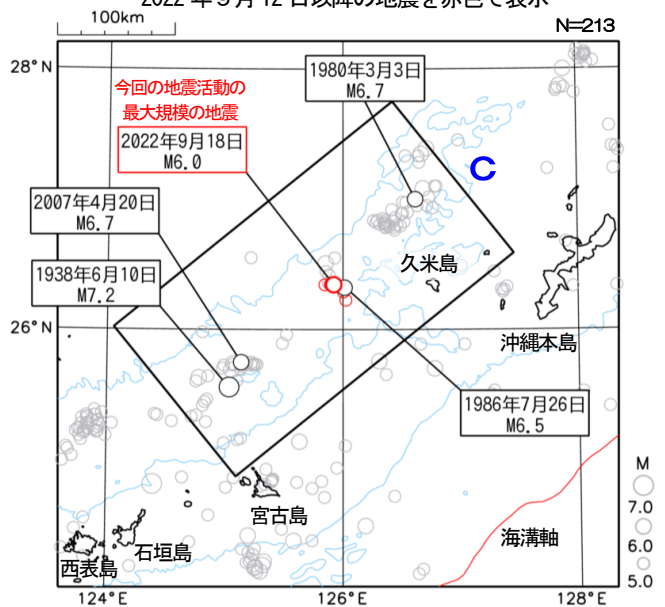
2000年7月以降の活動をみると、今回の震央付近（領域a）ではM5.0以上を最大規模とした地震活動が時々みられる。2003年12月24日の活動（最大規模M6.0、最大震度2）は、当日中にほぼ収まった。

また、領域bでは2022年1月30日から地震活動が活発になり、9月30日までに震度1以上を観測する地震が67回発生した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）ではM6.0以上の地震が時々発生している。そのうち、1938年6月10日に発生したM7.2の地震（最大震度4）では、宮古島平良港で1.5m程度の津波が目撃されており、栈橋の流出などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

震央分布図

(1919年1月1日～2022年9月30日、
深さ0km～60km、 $M \geq 5.0$)
2022年9月12日以降の地震を赤色で表示



図中の水色の等値線は水深1500mを示す。